

◇AM ラジオ放送の継続が難しいんだって？

大槻伸次

いま AM ラジオ放送が岐路に立っているという（毎日新聞 2019/3/28）。スマートフォンの普及などメディア環境が多様化する中で、主な収益源である広告費が低迷し、既存設備の維持・更新するコストの増加に直面しているという。こんな理由もあつてか日本民間放送連盟は 3 月 27 日（2019 年）、AM 放送を FM 放送に転換できるよう総務省に制度改正を要望したそうで 2028 年の再免許までの実現を目指すとしている。

現在 AM 局の大半は難聴対策や災害対策を目的に FM でも同じ番組を放送しており、両放送の運営は経営の負担になっているという。AM は振幅変調、FM は周波数変調。

私のラジオとの関わりは車の運転中や散歩などが主であるが、テレビの様に拘束されないので、移動や雑用をしているときはラジオが最適である。また、NHK の「ラジオ深夜便」は就寝すると同時にスイッチオンし一晩中かけっぱなしで子守歌代わりとなっている。そこで、AM が廃止されたとして FM（音質は良い）があればいいじゃないかと思うかもしれないが、ラジオの視聴はポケットブルラジオが主体（据え置き型のラジオはほとんどないだろう）で音質はあまり重要視しない。私の住んでいる市では「FM 太郎」という FM のローカル放送をしているが、市では専用の受信機を 2 回も販売したが、どれも満足に受信できない。（正確には 70 歳に到達した時点で、無料配布されたから 3 台所有）また、FM はロッドアンテナ（据え置き型であればそれなりのアンテナが必要）を伸ばさないといけないので邪魔。AM はフェライトコアアンテナが内蔵され（据え置き型もポケットブルも同じ。中には簡易アンテナ付もある）感度が良くコンパクトで安物の受信機でも事足りる等のメリットがあり受信が容易である。現在、私のラジオは情報源でありハイファイ音源としては期待していない。

私が小学生から中学生の頃の思い出のラジオ番組は、NHK ラジオの「早起き鳥」、「ラジオ歌謡」、「思い出のアルバム」（毎水曜日 pm8:30～）等。民間放送では昭和 30 年 7 月（中学 2 年）スタートの、「ポポンミュージックレター」、「NEC コンサートホール」「パイオニア・イブニングステレオ」、その他諸々の歌謡番組であった。NHK の「早起き鳥」は、朝 5 時のニュースの後に一日の始まりを告げる番組だった。内容は 5 時 55 分まで聴取者の手紙を読み、そこでリクエストされている音楽などを流し、後半は著名人のインタビューで構成されていた。現在では微かな記憶しかないが、リクエスト曲は歌謡曲、歌曲、セミクラシックなど多岐にわたっていたが、今朝はどんな曲が流れるのか楽しみだった。「ラジオ歌謡」は夕方の 5 時から 30 分間（月曜から金曜日で次週お浚いがあった）で歌詞の朗読や歌い方の指導があった。そこで「ラジオ歌謡」が始まるとラジオの前に陣取って、歌詞をメモって必死になって覚えた。中でも、「中原美紗緒」お姉さん担当の週は万難を排して家にいた。また、切手を同封すれば楽譜を送ってくれた。現在では楽譜はなくなってしまったが、中原美紗緒さんの週の「こわれた貝がら」と「あなたに逢うとき」等は今でも口づさめる。

民放のパイオニア・イブニングステレオはハイファイ放送のはしりで、平日の夕方 6 時 15 分からで左のラジオは文化放送右のラジオは日本放送で、最初に 2 台の受信機の丁度真ん中から音が聞こえるようにボリュームを調節するよう指導があった。また、通常の放送より音声の周波数帯域をぐっと広げて放送したため、音質は格段に向上したが、混信とノイズも若干増えたように記憶している (AM の弱点)。(スーパーラジオは高額なので、高周波 1 段増幅のストレート W チューナー HIFI 受信機を製作。昼間は母が内職の友として使用していたが、その日ドラマを聞いていた所、余りの高音質に、誰かが来たと勘違いしは一いと玄関に出て行ってしまったと云っていた)

昭和 36 年 7 月 30 日 (日) の日記に、午前 10 時 15 分よりの NEC コンサートホールは“酒場メキシコ”と組曲“大峡谷”。午後はポポンミュージックレター聴くとあった。「ポポンミュージックレター」は、東京ラジオ (現在の TBS ラジオ) 日曜午後 2 時から 4 時迄のディスクジョッキー形式の生音楽番組で、スタート以来録音で放送されたことは一度もなかった。司会の志摩夕起夫さんと、お便りの係である



浦川麗子と志摩夕起夫

浦川麗子さんとの掛け合いのディスクジョッキー形式がとても新鮮だった。また、志摩さんの独特な語り口と、浦川さんのお便り紹介が楽しくて番組に対する親しみが湧いた。番組名の「ポポン」とは番組提供の塩野義製薬のビタミン剤の商品名で、約 6 年半 (昭和 30 年 (1955 年) 7 月～昭和 36 年 (1961 年) 9 月 24 日) 続いた長寿番組で第 317 回を持って終了した。最終回はハイファイ特集ということで通常の放送より音声の周波数帯域を広げて放送されたため前評判通りの高音質に感動した。実に長いディスクジョッキー形式のワイド番組で、「ミュージックレター」という題名のように手紙を通して音楽の好きな人に放送で答えるという企画も素晴らしかった。日曜日はこの番組が聞きたくて必ず家にいた。中でもザ・ピーナッツの「小さな花」「情熱の花」は忘れられない名曲だった。この番組が始まった頃、巷では米映画「エデンの東」の前評判が凄かった。現在でもポポンと聞けばその当時の情景が鮮明に浮かんでくる。後継の「サンデーエクスプレス」という HIFI 音楽番組は 1 年ほどで終わってしまった。

私自身、NHK の早起き鳥、ラジオ歌謡、思い出のアルバム、ポポンミュージックレター、パイオニアイブニングステレオ、NEC コンサートホールなどからいろんなジャンルの曲を知り、解説を聞き音楽が好きになるきっかけを作ってくれた番組だった。こんな理由で、我々の世代のラジオとの関わりは現在のネットに匹敵するほどのものだったのである。そこで、時代の流れとはいえ思い出の AM ラジオが黄昏ていくのはいかにも寂しい限りである。

▼ポポンミュージックレター最終回 (317回) ハイファイ特集のリクエスト曲

- 1位【タラのテーマ】(映画主題曲) サウンドトラック。
- 2位【禁じられた遊び】(映画主題曲) サウンドトラック。
- 3位【メロンの気持ち】
- 4位【ハッシャバイ】(映画イスラエルの子守唄より) 歌、リン・クロスビー。
- 5位【キッス・オブ・ファイアー】
- 6位【エデンの東】(映画主題曲) ヴィクターヤングオーケストラ。
- 7位【霧のロンドン】歌ジョンフタ・フォード。
- 8位【枯葉】(シャンソン) 歌、イブモンタン。
- 9位【闘牛士のマンボ】ペレスプラド楽団。
- 10位【シャルメイン】歌、ビリーメイ。
- 11位【ドリーム】(夢)
- 12位【鈴懸けの路】鈴木章治とリズムエース。
- 13位【マドンナの宝石】ロンドン・シンフォニーオーケストラ。
- 14位【素敵なあなた】アンドネル・シスターズ。
- 15位【トゥヤング】歌、ナットキン・コール。
- 16位【慕情】(映画主題曲) ダビッド・ローズ・オーケストラ。
- 17位【ハーレム・ノクターン】サンザマン。
- 18位【ベサメムーチョ】(キッスを沢山) トリオ・ロス・パンチョス。
- 19位【カナダの夕日】ユーゴー・ウインター・ホルター。
- 20位【オチチョニア】(黒い瞳)
- 21位【ジャンニーギター】ヴィクター・ヤングオーケストラ・歌ペギー・リー。
- 22位【ジャングルファンタジー】パーシーフェースオーケストラ。
- 23位【魅惑の宵】(映画主題曲) 映画・南太平洋のサウンドトラックより。
- 24位【青空】(タンゴ)・マント・ヴァーニーオーケストラ。
- 25位【家路】(ドボルザーク新世界より) ウォルターシューマンオーケストラ合唱団。
- 26位【ムーンライト・セレナーデ】グレンミラーオーケストラ。



■上記写真・昭和36年6月24日の読売新聞夕刊より。